
元勇者。

脱脂綿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

元勇者。

【Nコード】

N5305S

【作者名】

脱脂綿

【あらすじ】

王道ゲームの勇者の話。

(前書き)

設定的には王道ゲームっぽい感じです。

物語が終わった後の勇者を私なりに考えました。

量は相当少ないですが割と重い内容？かもしれないので、

「ファンタジー！」って意気込んでここに来た方は

戻るボタンを押してくださいね^^;

消えない骸の山。

あちこちに飛び散る体の一部。

髪の毛にこびりついた返り血。

肉の腐ったにおい。

喉にまだ張り付いている緊張感。

そして、その殺伐とした風景の中で喜ぶ人々。

[illegible]

朝。小鳥がさえざるわけではないが、清々しい朝。

一日の一番はじめに見る景色はいつもとおなじ、自分の家の天井だ。

「――また……」

やっと昔と呼べるくらいになった過去のこと。

あの時は、周りから頼られることが当たり前で。

嬉しいか嬉しくないかって言ったら、やっぱり嬉しかった。

“勇者”という、呼び名も。

昨日も今日も、明日も、

モンスターと戦って、先に進む。

そしていつかは、魔王を倒して人々に平和をもたらす。

——そう思っていた。

そして、**実際**そうになった。

別に、モンスターを殺すことに抵抗があったわけではない。

人間にとって、害にしかならなかったから。

その死体は汚く残り、目や鼻を侵す。

それにさえ嫌悪感を覚えた。

でも、魔王を倒して、役目が終わった瞬間、思った。

モンスターにとっては、人間が害だったのではないかと。

汚く残った死体は、“勇者が”作り出したものではないかと。

何かしらの記憶や思いを持っていたかもしれないモンスターのなれの果て。

その近くで、人々が喜び笑っている。

笑っている。

この光景の中の2つの種族を入れ替えたら、妙にしくりきた。

そう考えたとき、胃液のいどころが妙に気になった。

あと、自分の手の中にある、剣。

これは、何を斬り捨て、何を切り開いてきたのだろうか。

その結果は、これなのか。

もしかしたら本当のモンスターは、

いや、きっと、

勝てば勝ちなのだ。

生き残れば、それは正義になるのだ。

と、思った。

個人個人の正義を判断するのがひとりひとりで、

全体的な正義を決めるのが多数決ならば。

つまり、人間という種族は正義になった。

剣は捨てた。

得た地位も捨てた。

もう血の匂いに触れなくなかった。

“普通”がほしかった。

しかし、記憶というものはなかなか捨てられないもののようで。

強烈な印象が伴うならなおさらなんだろう。

こうしてたまに夜の闇からじわりとしみだして、

脳を侵す。

(後書き)

初投稿は焦りますね(笑)

話自体は結構前に書いたやつなのですが^^;

今はあまりこういう暗いのは書いてないです。

お楽しみいただけたなら幸いです^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5305s/>

元勇者。

2011年10月8日23時58分発行